

ソマリア情報

道家 寧

今年9月11日、東部アフリカのソマリアで金環日食が見られます。このソマリアという国、旅行ガイドブックにはほとんど紹介されておらず、情報の少なさは昨年ガボンと同様です。ここにお届するのは最新のソマリア情報です。

1. 地理と気候

a. アフリカの角

正式国名はソマリア民主共和国 (Somali Democratic Republic)。アフリカ大陸の東岸、いわゆる「アフリカの角 (Horn of Africa)」と呼ばれる地域に位置し、東と南東はインド洋に面し、北はアデン湾を隔ててイエメンに対し、北西端でジブチ、西はエチオピアおよびケニアと国境を接しています。

広さは63.8万平方キロで、日本のおよそ1.7倍。地形は北に高く(一番高い山は2408mのスルド・アド山)、南にいくほど低くなっています。南東のインド洋岸は平野で、ここに流れるウェビ・シェベリとジュバの2つの大きな川の下流域は、ソマリア随一の農業地帯をなし、バナナのプランテーションがさかんに行われています。海岸部はサンゴ礁が発達していて、首都のモガディシュ(イタリア語読みでモガジシオ)も、隆起サンゴ礁の上に建てられた町です。モガディシュを一步離れば、そこは砂丘地帯。白っぽい砂が汚れた雪のようで、点在するテーブルツリーの緑が美しいコントラストを見せています。



(アッサラームN○31より)

b. 熱く乾いた砂漠気候

年平均気温32~36°C、降雨量53~429mmの乾燥地帯。ただしモガディシュなど海岸地方では

インド洋の影響を受けてやや緩和され、年平均気温は27℃となっています。気温は年間を通してほとんど変化しません。

雨期は年2回、まず南西季節風が吹く4月～8月まで（大雨期）、つづいて11月頃、北東季節風による雨期があります（小雨期）。9月は雨期の終わりにあたっており、天気はおおむね良いとのこと。いずれにしても熱帯の雨はスコールで、雲も朝はないが、午後になると出てくるようです。

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 平均気温(°C) | 26.4 | 26.7 | 27.8 | 28.9 | 28.4 | 26.4 | 25.6 | 25.6 | 26.1 | 27.2 | 27.2 | 27.0 |
| 平均湿度(%) | 79 | 77 | 77 | 77 | 80 | 81 | 82 | 83 | 82 | 80 | 80 | 80 |
| 降雨量(mm) | 0 | 0 | 0 | 58 | 58 | 97 | 64 | 48 | 25 | 23 | 41 | 13 |

(モガディシュ/理科年表より)

2. 人種, 宗教, 言語

a. 遊牧の民

ソマリア人は70%がソマリ族、ダナキルス族などの遊牧民で、大半がイスラム教徒（スンニ派）です。今日、ソマリアのイスラムは一般に伝統主義で、穏和、抱擁力に富むといわれています。なお人口は530万人で、うちモガディシュに70万人が住んでいます（1984年の統計）。

b. イタリア語が通じる

現在、公用語はソマリア語。ただし南部では、旧宗主国の言語であるイタリア語が広く使われています。モガディシュのホテルでは英語も通じるようですが、地方の町では、やはり身振り手振りで話すしかないとか。

3. 旅行手続き

a. 査証

入国査証は観光・業務共に必要です。申請はソマリア民主共和国大使館へ。申請から受領まで3～4日かかります。

b. 通貨と両替

通貨単位はソマリア・シリング (So.Sh.と略記) で、1シリングは約1.64円（1987年8月）。外貨（ドル）の持込みに制限はありませんが、為替管理が厳重で、入国の際に所持金の申告を義務づけています。また両替時に発行される両替証明書を出国時にチェックされます。

c. 予防注射

コレラのほか、黄熱病の予防接種が必要です。コレラはソマリア国内の一部地域で発生が伝

えられています。ほかに義務づけられてはいませんが、破傷風、A型肝炎の予防注射も、できれば済ませておきたいものです。

マラリアは、アフリカで日本人がかかりやすい熱帯病で、WHO（世界保健機関）の勧告によれば、ソマリアを含むアフリカの全地域で、年間を通じてマラリアに対する警戒が必要である、とされています。特に東部アフリカでは、マラリア原虫がクロロキンに対して耐性を持っているため、耐性のない薬を飲まなければなりません。（例えばファンシダール。ただしサルファ剤過敏症の人には不可）

4. 日本からの空路

日本からの直行便はありません。フランクフルトからソマリ航空（HH）が週2便（月・金）ローマ経由でモガディシュへ飛んでいます（所要10～11時間）。月曜日の便を利用する場合、現在の航空会社のタイムテーブルによれば、フランクフルトなら日本航空（JL）またはルフトハンザ航空（LH）、ローマなら日本航空またはアリタリア航空（AZ）の、いずれも9月4日出発の北回り便があります（金曜日の便ではモガディシュに日食の前日に到着することになり、時間的余裕がなさすぎます）。したがって日数も最低10日間は必要です。

一方、中東方面からはジェッダで乗り換えると、所要時間もいくらか少なくてすみませんが、このルートは大きな荷物をかかえた出稼ぎ労働者が多く、荷物の積み残しが出るなど、外国人旅行者には勧められません。

5. ホテルと食事

モガディシュには全部で6軒のホテルがあり、うち2軒が国営です。モガディシュ国際空港から東へ6 km、町の中心部の海側にあるHotel Al-Urubaは、この国有数の国営ホテル（200室）。すぐ近くにもう1つの国営ホテル、Juba Hotelもあります。ソマリアの国情については後で述べますが、外国人の宿泊はこれら国営ホテルのほうが、何かあったときにいろいろと都合がよいように思われます。ちなみに国営ホテルは、1泊朝食付きで20～25U.S.ドルという安さです。

食事は物価が安いので、パン（またはライス）、スパゲッティ（スープのかわり）、肉（または魚）、フルーツ、コーヒーなどのセットが200～300 シリングで食べられます。レストランはホテル以外にもありますが、看板が目たず見つかるのに苦労するようです。

6. ソマリアの国情その他

ソマリアは現在アラブ連盟の一員で、古来アラブとのかかわりは深いものがあります。7世紀頃、アラブとペルシャ人商人によって沿岸部にイスラムが伝えられ、つづいて象牙・金・奴隸などの交易に従事するムスリム商人がソマリアの海岸部に住み着き、港を中心とした小都市

がつくられていったのが10世紀頃。モガディシュ・メルカ・ブラバ等は当時そのようにして生まれ、栄えた町です。今日、モガディシュはイスラムの都市らしいアラビア風の景観をもち、14世紀のモスク・城砦を修復した歴史博物館もありますが、19世紀末にヨーロッパ勢力が侵入、北部をイギリスが、南部をイタリアが保護領にしたことから、港に面した中心街の一面は、イタリア領時代に建設されたヨーロッパ風の市街が続き、ここを「小ローマ」と呼ぶ人もいます。ところでソマリアは1960年に独立、社会主義路線をとりましたが、その戦略的位置から近年情勢が注目されています。国境での紛争が続いており、国内での緊張が高まっています。市内には私服の警察官もいて、写真撮影は特定の場所に限らず、一般に行うことは不可能だといえます。また慢性的な燃料不足から、ガソリンが配給制となっており、地方への移動が難しいとのこと。

《参考資料》

- ・交通公社のポケットガイド／アフリカ
- ・朝日各国情報ザ・ワールド' 88
- ・週刊朝日百科・世界の地理／西アジア・アフリカ